

今週（8月5日から8月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週間の当座預金残高は390兆円台後半で横ばい圏での推移となった。無担保コールO/N加重平均レートは、先週2日の税揚げを受けて強含む中、レボレートが上昇したこともあって、週を通して上昇する展開となった。週初は大手行がレート上昇の地合を牽引し、▲0.050%から始まった。週半ばからは大手行のBIDレートは低下したものの、最終調整の地銀業態の調達が散見されたため、▲0.03%前後での推移となった。業態別では、都銀で▲0.060～▲0.030%、信託で▲0.050～▲0.025%、地銀で▲0.060～▲0.020%、証券で▲0.055～▲0.020%での調達が見られた。ターム物は積みの終盤でオファーサイドの運用ニーズが細ったことや足元のレートが高止まっていることなどから、1Wのショートタームで▲0.025～▲0.020%程度の出合いが見られた程度であった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、9日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額605億円（期落ち額655億円）の札割れとなった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、週初は旺盛な資金調達ニーズを受けてレートが上昇したものの、週後半にかけては資金調達ニーズの減退や玉確保ニーズの高まりからかレートを切り下げる展開となった。出合いレンジは▲0.08～▲0.01%と幅広い水準であった。

SC個別銘柄では10Y336～355、5Y136～140、30Y59～62、40Y9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3M物と6M物・1Y物で地合いが分かれていた。3M物については、需給環境が芳しくない中、ファンディングレートの高止まりもあってか▲0.100%程度での出合いが見られるなど、一段と軟調な展開となった。一方で、年末越えの6M～1Y物は、▲0.200%台での出合いと、堅調に推移した。

6日に実施された短国買入オペは、市場実勢を鑑みてか直近のオファー傾向を踏襲せず、5,000億円でオファーされた。応札額が1兆4,752億円と、応札限度額を鑑みるとかなり多く、平均落札利回較差+0.010%、按分落札利回較差+0.008%と、在庫調整の売りからか弱めの結果となった。

8日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.210～▲0.200%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1934%、按分落札利回▲0.1873%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.210～▲0.205%と一時強めの出合いが見られたものの、その後は閑散で、引け際に▲0.196%で少額出合って引けた程度であった。

9日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.100%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.0989%、按分落札利回▲0.0932%と前回債からレートが上昇する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.098～▲0.095%出合いと按分レート近辺で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、不動産・小売・その他金融業態等で大型案件が実施され、週間償還総額4,000億円程度に対して、週間発行総額は6,300億円程度と発行超のマーケットとなった。発行残高は、週を通して21兆円台後半と極めて高水準で推移しており、金融機関を除いた事業法人残高に関しては、連日過去最高を更新している。高水準の残高を反映してか、マイナスレートでの応札は限定的で、期越え物についても低レートでの入札はあまり見られず、発行レートは引き続き0%近辺での出合いが中心となっている。

6日にはCP等買入オペがオファー額2,500億円で実施された。入札結果は平均・按分落札レートともに▲0.001%となり、前回比（平均0.003%・按分▲0.001%）で按分レートは横ばいとなった。特定の銘柄が少なかったため、平均レートは低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/5 (月)	20,720.29	△ 0.199	106.03	△ 0.050	△ 0.025	3,960,300
8/6 (火)	20,585.31	△ 0.185	105.60	△ 0.031	△ 0.039	3,965,500
8/7 (水)	20,516.56	△ 0.200	106.15	△ 0.032	△ 0.049	3,964,600
8/8 (木)	20,593.35	△ 0.195	106.11	△ 0.033	△ 0.073	3,966,800
8/9 (金)	20,684.82	△ 0.223	105.98	△ 0.029	△ 0.068	3,962,600

来週（8月13日から8月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/12 (月)	振替休日				7月の米財政収支
8/13 (火)	7月の企業物価指数(日銀 8:50) 6月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				7月の米消費者物価指数
8/14 (水)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50)	交付税借入 10,500億円 8/22借入			7月の英消費者物価指数 4-6月期のユーロ圏GDP2次速報
8/15 (木)		5Y 19,000億円 8/16発行			6月の米企業在庫 7月の米小売売上高 7月の米鉱工業生産・設備稼働率
8/16 (金)		TB3M 43,000億円 8/19発行	国有林野借入 964億円 8/26借入		7月の米住宅着工件数 8月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/12 (月)	振替休日								
8/13 (火)	100	2,900	3,000	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 700 ▲ 400 100	10,000 600 600	10,200	13,200	TB3M発行▲42800償還42800 TB6M発行▲23000償還20200
8/14 (水)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	交付税借入▲10500期日10500
8/15 (木)	0	73,000	73,000				0	73,000	年金定時払い 社会保障費 源泉所得税揚げ 2Y償還7900 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲4500 個人向け3Y・5Y償還900
8/16 (金)	0	▲ 24,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	5Y発行▲19000
週間合計	100	50,900	51,000	—	▲ 1,000	11,200	10,200	61,200	

8/13は日銀予想、8/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日が年金定時払いによる大幅余剰日、16日が5年利付国債発行による不足日が予想される。無担保コールO/N加重平均レートは、引き続き15日までは高止まりが予想されるものの、新しい積み期間となる16日には低下すると考えられる。レポ市場は、今積み期間の最終日と新しい積み期間を挟む週となり、資金ニーズの動向が注目される。短国市場は、16日に3M物の入札が実施予定となっている。需給環境が3M物のレート水準へどう影響するか、市場動向が注目される。短国買入オペは14日に実施されると見込まれるが、買入額が5,000億円からどの程度増加するか（それともしないのか）注目したい。CP市場は、事業法人の夏季休暇の時期となるため、発行は減少することが予想され、市場残高の増加も一段落すると見込まれる。

主要なイベントとしては、13日に7月の米消費者物価指数、14日に7月の英消費者物価指数、4-6月期のユーロ圏GDP2次速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入